メッセージ　12

花婿、花嫁の円熟、戦士となって神の敵を打ち破ること

聖書：ヨハネ 3:29 前半．マタイ 9:15．ヘブル 6:1．啓 19:7

Ⅰ．キリストは花婿です――マタイ 9:14-15．22:2-3．25:1，5-6，10：

A．全宇宙において、最も喜ばしい方は、花婿としてのイエスです。

B．バプテスマのヨハネは言いました、「花嫁を持つ者は花婿である」――ヨハネ 3:29 前半。

C．イエスはご自身を花婿として提示しました――マタイ 9:14-15．マルコ 2:19：

1．聖書の終わりに、「小羊の妻」という用語があります――啓 21:9。

2．神の小羊（ヨハネ 1:29）は贖い主ですが、十字架上でわたしたちの罪を取り除いた小羊は、婚姻のためのわたしたちの花婿でもあります（啓 19:7）。

D．花婿が臨在する時、恐れは存在しません。わたしたちは主の臨在に触れ、花婿としての彼に触れるとき、彼の愛すべきこと、甘さ、新鮮さに触れます。彼は非常に愛すべき方です！

E．詩歌 140 番の 1 節は言います、「主よ、あなたはあの愛すべき花婿であり、神に定められ、わたしが愛する方です。あなたご自身は豊かに引き寄せ、わたしの心は愛慕しないはずがありません！」（全訳）。

F．わたしたちがキリストをわたしたちの花婿として享受する四つの方法（あるいは四つの面）があります：

1．第一に、わたしたちは花婿の付き添いの友であり、花婿を享受します――マタイ 9:15。

2．第二に、わたしたちは客であり、彼をわたしたちの祝宴として享受します――ルカ 14:15-17．啓 3:20．19:9。

3．第三に、わたしたちは処女であり、花婿の来臨を享受します――マタイ 25:1-13。

4．第四に、わたしたちは花嫁となって、花婿を極みまで享受します――啓 19:7。

G．今日の主の行動の方向は、花婿の配偶者としての花嫁を用意して、贖う神と彼の贖われた人を永遠に結婚させることです――7-8 節．21:1-2，9-10。

H．わたしたちは、花婿としての主イエスが来つつある方であることを認識する必要があります：

1．彼は、彼の花嫁としてのわたしたちと会うために来つつあります。

2．主の来臨の啓示は、彼が花婿であるということの中に含まれています。

Ⅱ．わたしたちは、花嫁の円熟を見て理解する必要があります――Ⅱコリント 3:18．**ローマ** 8:29．**エペソ** 4:13，15．**ヘブル** 6:1．**啓** 19:7 **後半**．21:2，9：

A．啓示録第 19 章 7 節後半は言います、「彼の妻は用意を整えた」。

B．キリストを愛する者は神聖な命の円熟において、シュラムの女（「ソロモン」の女性形）となります。これは、彼女がキリストの複製また複写となって、彼と結婚するのにふさわしくなっていることを示しています――雅 6:13．啓 21:2，9-10。

C．ギリシャ語で「円熟」という言葉の意味は、「終着点」です：

1．造り変えられることは、わたしたちの天然の命において新陳代謝的に変えられる

ことです。円熟することは、わたしたちを変える神聖な命で満たされることです——ヘブル 6:1．コロサイ 4:12．ローマ 12:2．Ⅱペテロ 1:3。

２．造り変えの最後の段階は円熟、すなわち、命の豊満です——4-8 節。

３．円熟した信者は、キリストのからだを認識し、キリストのからだを顧慮し、からだの感覚があり、からだを中心としています——Ⅰコリント 12:16，18-19，21，24。

Ｄ．新約聖書において「円熟」という言葉は、信者たちが再生の時に受けたキリストの命において完全に成長し、完全にされていることを指すのに用いられています——テトス 3:5．Ⅰペテロ 1:3，23．マタイ 5:48：

１．わたしたちは決して自分自身に満足すべきではなく、キリストの命において成長し円熟することを追い求めるべきです——ピリピ 3:12，14。

２．わたしたちは前進して円熟へともたらされ、後ろにあるものを忘れて、前にあるものに向かって体を伸ばしつつ、キリストに対する最も満ち満ちた享受とキリストを獲得することとを追い求める必要があります。それは、千年王国においてキリストに対する極みに至るまでの享受を持つためです——12-15 節。

３．霊的命において円熟するための必要条件は、神聖な命において絶えず成長することです——エペソ 4:15。

４．信者たちがキリストの命の中で成長し円熟した最終的な結果は、完全に成長した人、すなわち、召会がキリストのからだとして成長して円熟した人になることです——13 節。

Ｅ．ヤコブは彼の書簡の中で、農夫が辛抱強く、地の尊い実を切に待っている例証を用いています——ヤコブ 5:7：

１．主イエスは、実は真の農夫、唯一の農夫です——マタイ 13:3。

２．わたしたちが辛抱強く主の来臨を待ち望んでいる間、彼は真の農夫として、畑の初穂と収穫物としての、命におけるわたしたちの円熟を忍耐をもって待ち望んでいます——啓 14:4，14-15。

３．わたしたちが「主よ、早く戻って来てください」と祈るなら、主は次のように言うかもしれません、「あなたがわたしの再来を待ち望んでいる間、わたしはあなたの円熟を待ち望んでいる。あなたの円熟だけがわたしの再来を早めることができる」。

４．わたしたちが主の再来を待ち望むことについて真剣であるなら、命において成長して円熟に至る必要があることを認識することは、大きな助けとなります。

Ｆ．円熟することは、キリストがわたしたちの内に完全に形づくられるようにすることです。それはまた、わたしたちが彼のかたちへと完全に造り変えられていることを意味します——ガラテヤ 4:19．Ⅱコリント 3:18：

１．わたしたちの再生の時以来、主はわたしたちの中で働いてきました。それはわたしたちが彼のかたちを持つためです——18 節．ローマ 8:29。

２．主が彼のかたちをわたしたちの中へと完全に造り込み、わたしたちを通して完全に表現されるとき、わたしたちは命において円熟します——エペソ 3:16-17。

Ⅲ．キリストの花嫁としての召会は、神の敵を打ち破る戦士でなければなりません——エ

ペソ 5:25-27．6:10-18．**啓** 19:7-9，11-16：

A．コロサイ第 2 章 15 節は、キリストが十字架につけられた時に進行していた戦いを描写しています。その時、キリストの十字架は宇宙の中心でした。

B．霊的戦いの目的は、神の王国をもたらすことです――啓 12:10。

C．霊的戦いは、からだの事柄です。わたしたちは団体的な軍隊であり、地上における神の権益のために戦います――17:14．19:14．参照、Ⅱテモテ 2:4。

D．キリストは戦う将軍として、彼の軍隊である彼の花嫁と共に来て、ハルマゲドンで反キリストと戦います――啓 19:11-21：

1．キリストは彼の軍隊と共に来る時、人の子として来ます――マタイ 26:64．啓 14:14。

2．彼は人の子として、彼に符合し彼を完全にする配偶者を必要とします。この配偶者が彼の花嫁となります――21:2，9。

3．キリストは、邪悪な者にすでに打ち勝っている勝利者と結婚します。

4．婚宴の礼服は、わたしたちの日ごとの義としてわたしたちから生かし出されたキリストです。これにより、わたしたちは婚宴に参加する資格を持つだけでなく、また軍隊に加わる資格をも持って、ハルマゲドンの戦いにおいて、キリストと共に反キリストと戦います――マタイ 22:11-12．啓 19:7-8，14。

E．わたしたちが雅歌において見るのは、勝利を得た、キリストを愛する者が、美しいことテルザのようになり、愛すべきことエルサレムのようになりますが、敵にとっては、恐ろしいこと旗印を持った軍隊のようであるということです――6:4，10：

1．キリストを愛する者は、愛らしくあるべきであり、またそれと同時に恐ろしくあるべきです。しかしながら、多くの信者は、主の御前での彼らの愛らしさと敵の前での彼らの恐ろしさを失ってしまいました――4，10 節：

a．キリストを愛する者は、主の御前で美しく、麗しく、天の都のように堅固であって、また聖なる所のように平穏です。それと同時に、彼女は自分の勝利の栄光を、敵とこの世の前で現し出します――4，10 節。

b．勝利を得た、キリストを愛する者は、望みに満ちている将来と絶対的に天的な生活を持っているだけではなく、彼女の勝利の中で絶えず勝ち誇る勝利者でもあります――3:7-8。

2．恐ろしい軍隊は、主の勝利者が神の敵サタンを恐れさせることを表徴します――6:4，10：

a．敵は、神の都として建造された召会を恐れます――ネヘミヤ 6:15-16．詩 102:12-16。

b．サタンは、個人主義的なクリスチャンが何千何万になったとしても恐れませんが、キリストのからだとしての召会、すなわち、サタンと彼の王国に敵対して戦う団体的な戦士を恐れます――エペソ 6:10-20。

F．ダビデは、苦難のただ中で戦うキリストを予表します（サムエル上 25:28）。アビガイルは、神の王国のために苦難のただ中で戦う召会を予表します（2-42 節）：

1．サムエル記上第 25 章以降、アビガイルは常に、戦士であるダビデのそばにいて、彼の戦いにおいて彼に従いました――40-42 節。

２．アビガイルがダビデと結婚したことは、召会が戦いのために軍隊に加わったことを予表します――エペソ 6:10-20。

３．アビガイルの予表が描写しているのは、召会が主イエスと共に霊的戦いにあずかるということです：

ａ．神の永遠の定められた御旨が成就されて、彼の心の願いが満たされなければならないだけでなく、神の敵が打ち破られなければなりません。召会はこのために戦士でなければなりません。

ｂ．霊的戦いが必要とされるのは、サタンの意志が神の意志に敵対しているからです――マタイ 6:10．7:21．イザヤ 14:12-14：

(1) 霊的戦いは、神聖な意志とサタンの意志との衝突をその源としています。

(2) 召会として、わたしたちの戦いは、サタンの意志を服従させ、神の敵を打ち破ることです――啓 12:11。

(3) わたしたちの霊的歩みは、神の定められた御旨を成就するためです。わたしたちの生活は、キリストを満足させるためです。わたしたちの戦いは、神の敵を打ち破るためであり、彼の勝利を維持することです。

Ｇ．霊的戦いを通して、神の永遠の定められた御旨は完全に完成されます。「世の王国は、わたしたちの主と彼のキリストの王国となった．彼は永遠にわたって王として支配される」――11:15 後半。

©2026 Living Stream Ministry